

## 第8回日本総合歯科学会総会・学術大会の報告

岡田 智 雄 (大会長)

横 澤 茂 (実行委員長)

第8回日本総合歯科学会総会・学術大会は、平成27年11月20日(金)、21日(土)、22日(日)の3日間に行われ、日本歯科大学附属病院総合診療科の主幹により日本歯科大学生命歯学部にて開催されました(図1, 2)。



図1 樋口理事長挨拶



図2 岡田大会長挨拶

今回の大会テーマは「総合歯科からはじまるリレーションシップ」とし、特別講演2題、教育講演1題、3名のシンポジストによるシンポジウムおよびランチョンセミナー1題を企画しました。また、一般口演発表は11題、ポスター発表31題(若手セッション17題、一般セッション14題)の発表がありました。大会参加者数は235名(会員159名、研修歯科医・大学院生・学生73名、その他3名)となり、過去最高の参加者数を数え、活発な議論がなされました(図3)。



図3 大会場の様子

特別講演Iでは、統合的心理療法研究所(IPI)所長の平木典子先生から「歯科医療関係者のためのアサーション」と題してご講演をいただきました。アサーションが「相互尊重の関係を築こうとするコミュニケーションの考え方と方法である」との解説から始まり、臨床の現場においてアサーティブな関係性を築くための具体的な方法についてまで、短時間ながら濃密な内容をお話いただきました(図4)。



図 4 特別講演 I 平木典子先生



図 5 特別講演 II 住友雅人先生

特別講演 II では、日本歯科医学会会長の住友雅人先生から「日本歯科医学会分科会への加入のすすめ」と題して、21 の専門分科会と 22 の認定分科会の会員、そして日本歯科医師会会員で構成される日本歯科医学会の活動内容とビジョンについて、熱くご紹介いただきました。日本歯科医学会の認定分科会加入を目指している本学会にとって、大変示唆に富んだ内容となり、各学会員の意識も高まったものと思われまます（図 5）。

教育講演では、本学会初代会長であり広島大学名誉教授であり本学会初代会長の小川哲次先生から「総合



図 6 教育講演 小川哲次先生

歯科学会のビジョン—学会に期待するものと期待されるもの?—と題し、本学会設立の経緯から現在までに至る歴史、本学会の目的、ビジョン、期待されるもの等をご紹介いただき、本学会の意義・目的を再認識するとともに、全会員の方向性を揃え、学会としてさらに飛躍するための意義深い内容をお話いただきました（図 6）。

シンポジウムは、テーマを「総合歯科からはじまるリレーションシップ」とし、北海道大学名誉教授・京極町国民健康保険診療所長の前沢政次先生からは「総合診療医と総合歯科医との連携」について、全国在宅療養支援歯科診療所連絡会会長の原龍馬先生からは「在宅歯科医療と総合歯科とのかかわり」について、また日本歯科医師会常務理事の小林慶太先生からは「日本歯科医師会の考える総合歯科」と題して講演をいただきました。その後 3 人の先生方にご登壇いただきシンポジウムを開催し、質疑の中から医科、在宅医療、日本歯科医師会の各立場から総合歯科に期待する内容が語られました（図 7）。

ランチョンセミナーでは、日本歯科大学附属病院総合診療科教授の秋山仁志先生から「超高齢社会と歯科臨床実習用シミュレーションシステム SIMROID®」と題して講演をいただきました。



図 7 シンポジウム演者

大会恒例となりました、若手ポスターセッションのコンペティションでは17題の応募があり、発表と質疑の時間は、多数の会員により熱気とやさしさにあふれる討論が行われました。理事による厳正な審査の結果、最優秀賞として昭和大学の中井健人先生が、優秀賞として鹿児島大学の阿多美幸先生、岡山大学の梅原千幸先生、笠井悠未先生、新潟大学の清水志保先生がそれぞれ選ばれ、閉会式にて表彰とともに記念品が贈呈されました（図8）。

また、大会懇親会は会場と同じ建物内のホールオアシスにて行われ、119名が参加し、こちらも総合歯科を目指す同士が集い、大学等の垣根を越えた活発な交流がなされました（図9）。

最後に、本学術大会を開催するにあたり、ご指導を賜った樋口理事長を始め理事・役員の皆様、特別講演、教育講演、シンポジウム、一般口演、ポスターセッションにて講師・座長を快くお引き受けいただきました皆様、さらに協賛いただきました企業の皆様、そして本学術大会にご参加いただきました会員および非会員の皆様に、誌上を借りまして深く御礼申し上げます。



図 8 若手ポスターセッションの表彰



図 9 会員懇親会の様子